

よく考え、すすんで学習する子供の育成  
～表現力の向上を目指した指導の工夫～

I 主題設定の理由

昨年度の研究では、どうすれば子供たちの表現力が高まるかについて様々な手だてを試みた。児童の表現力の向上について一定の成果が得られたが、十分な表現力が付いたというまでには至っていない。また、表現力の評価方法についても課題が残された。

今年度は、昨年度の研究を土台に「表現力」のさらなる向上を目指すこととした。昨年度同様「思考力・判断力・表現力」は一体化されたものであり、「思考力・判断力」が見える形にしたものが「表現力」であるという考えで研究を進めたい。表現力を育てる学習指導の方法を探り、授業実践を通してその成果を明らかにしていきたい。

II 研究仮説

表現力を育てる指導を工夫することで、確かな学力が向上し  
よく考え進んで学習する子供が育成できるであろう

III 研究の具体的な内容と方法について

- 研究（１） ①講師を招いての学習会  
②表現力に関する実態調査等  
③ブロック別の研究会（低学年ブロック・高学年ブロック）  
④授業実践（各ブロックごと）  
⑤一人一実践の取り組み
- 研究（２） 日常的な言語活動の充実  
（話し方・聞き方の指導、読書活動の推進、スピーチ、日記指導など）

IV 研究実践

1 学習会

- （１）「表現力の向上，ポイントは何か」  
講師：山梨大学教授 岩永 正史 先生

2 検証授業

- （１）第３学年２組 算数科授業実践 「かけ算のしかたを考えよう」  
授業者 雨宮 和美
- （２）第５学年 社会科授業実践 「工業の今と未来」 授業者 橋本 尚一

3 一人一実践

- 第１学年１組 国語科授業実践 「ことばであそぼう」 授業者 保坂 穂波

第1学年2組	国語科授業実践「おおきなかぶ」	授業者	原藤 生府
第2学年1組	国語科授業実践「おもちゃの作り方」	授業者	鈴木 奈津美
第3学年1組	社会科授業実践「日本一のぶどう作り（農家の仕事）」	授業者	畠山 忠
第4学年1組	国語科授業実践「だれもがかかわり合えるように」	授業者	中村 悦美
第4学年2組	算数科授業実践「計算のやくそくを調べよう」	授業者	中根 淳
第4学年2組	理科授業実践「物の体積と温度」	授業者	清水 芳彦
第6学年	算数科授業実践「角柱と円柱の体積」	授業者	安富 智恵美
ひまわり学級	国語科授業実践「なぞなぞを作ろう」	授業者	長沼 薫

## V 成果と課題

### 1 成果

- 目指す児童像を明確化し、低学年・高学年のブロックごとに取り組むことで、児童の発達段階に合わせて研究を深めることができた。
- 授業研究では、様々な手立てにより3年生と5年生の子供たちが、生き生きと自分の考えを話す姿を見ることができた。
  - ・子供たちが「やってみたい」と思うような学習課題を提示することで、意欲や表現力の高まりが見られた。
  - ・ヒントカード・ワークシート・分かりやすい資料などを提示することにより、その子なりの意見を持たせることができた。
  - ・話しやすい学級の雰囲気、少人数での話し合いなど、話すことが苦手な子でも表現しやすい場の設定が有効であった。
- 表現力はどの教科でも、どんな活動をする上でもとても大切であり、児童の実態にあった研究課題であった。
- 「表現力の育成」について全職員が共通理解して取り組んだこと、それ自体が大きな成果であった。教師が表現力の育成を意識して普段の授業に取り組むことにより、児童の表現力の高まりが見られた。

### 2 課題

- 表現する力を向上させるには、「話す・聞く」と合わせて「書く力」も課題となる。
- 自主性を育むことについては、さらに取り組みの必要性を感じる。
- 基礎的・基本的な知識や技能を確実に定着させていく必要がある。しかし、その場合にも子供の興味・関心、課題意識、意欲を大切にし、生きた力となるようにしていかなくてはならない。

(研究主任 中村 悦美)